

磯 碩  
「神奈川における交易・交流」

「モノを活用した日本史教材」経過報告

県立川崎高校 白 川 重 敏

共同研究テーマ「神奈川における交易・交流―神奈川をめぐるモノを活用した日本史教材」を設けて五年目となる。この研究活動は、観点別評価が実施されゆく中、地域にある史料を使って、それをどのように教材化し、授業に生かすことが出来るかを課題としている。委員会は八月と二月を除く毎月一回、委員の勤務校や県内施設を使って月例会を開き、秋と春の研究発表会で発表してきた。また恒例となった世界史研究推進委員会との合同委員会も実施し、活発な討議がなされた。七月には全歴研宮城大会に日本史から鍵和田武彦(相武台高校)が参加・発表し、神奈川の研究水準の高さを披露した。八月には恒例となった夏季巡検を実施したり、日本史サマーセミナーを企画した今年度は関東歴史研究協議会(関歴研)神奈川大会が開催され、多くの参加者と多大な協力を得て、無事終了することができた。各月例会場、研究発表者は次のとおりである。

【月例会】

四月(湘南台)・五月(湘南台)・六月(外短附・日世合同)・七月(県立歴史博物館)・九月(県立川崎)・十月(湘南台)・十一月(柏陽)・十二月(上鶴間)・一月(柏陽)・三月(県民センター)

【研究発表】

○秋季研究発表会(十月十七日) 神奈川県民センター(日世合同企画)

「明治初期の小田原藩藩政改革」 岩崎孝和(元石川高校)

○関東歴史研究協議会 兼 春季研究発表会(三月七日)

神奈川県民センター

「在郷町―厚木―」

安川一平(東海大相模高校)

「歴史とともに生活する―近代遺産の活用を通して―」

木村芳幸(柏陽高校)

○全国歴史教育研究協議会宮城大会(七月二十五日)(仙台)

「江戸時代の砂糖生産について―池上幸豊を例として―」

鍵和田武彦(相武台高校)

【夏季巡検】

今年八月二十四日に、横須賀方面を柏陽高校木村芳幸の案内で実施した。今回のポイントは「横須賀の水道と看板建築を歩く」と題し、逸見浄水場を特別に許可をいただいで内部見学し、大正・昭和初期に海軍によって作られた施設が現在も使用されている状況を確認した。その後市内に移動し、昭和初期の「看板建築」の町並みを確認し、最後に北久里浜駅近くの馬門山海軍墓地を見学した。

【2007日本史サマーセミナー】

柏陽高校を会場に、八月二十七・二十八・二十九日の三日間実施した。内容はセンター試験において出題傾向が高まっている生活・文化史について、テーマ毎に当委員会の教員が中心となって、受験対策授業を行った。柏陽高校以外の高校からも生徒・教員多数の参加もあり、盛況の内に修了することができた。

最後になったが、月例会の会場をご提供いただいた各高等学校、県民センター・県立歴史博物館に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解・ご協力をお願いする次第である。